氏名：今井　亨
所属：医学部医学科　5 年
派遣先大学：ベトナム国家農業大学
派遣期間：2016 年 1 月 3 日～1 月 13 日

◆　日本語教室での指導内容

私がベトナムに行った期間では、同級生の友人と私を含めた 2 人で日本語教室の授業を担当した。平日 9 時 30 分～11 時までと、15 時半～17 時まで、毎日 2 コマ授業をおこなった。

初回の授業準備の際は、生徒たちの日本語レベルが不明だったため私と友人で、日本語を初めて学ぶ学生向けの講義（ひらがな、カタカナ）と、中級者向けに日常会話の授業を 2 コース用意しておいた。

実際に授業に臨んでみると、私達が予想していたよりも遥かに学生の日本語のレベルは高かった。日本語を初めて学ぶ学生はいなかったため、初学者向けのコースを廃止した。生徒の学習状況に合わせ、中級者向けのコースと上級者向けのコースの 2 つにクラスを分けた。上級者向けのコースを友人が、中級者向けのコースを私が担当した。

上級者向けのコースでは、殆どの学生が「みんなの日本語初級Ⅱ」を終えていたため、敬語や助詞の使い分けなどの授業を行なっていたようだ。私が担当した中級者向けのコースでは「みんなの日本語Ⅰ」の第 7 課までを学んだ学生が多かったため、その次の第 8 課から講義をスタートした。

授業のスタイルとしては、「みんなの日本語初級Ⅰ」をテキストに以下の流れでおこなった。

１．新しい単語　→　発音や意味の確認
２．例文　→　文法や用法の確認
３．会話　→　学んだ例文を用いて 2 人～3 人で会話練習
４．問題　→　章末にのっている問題を解いて、解答の解説

私はベトナム語に関しては挨拶程度しか勉強していかなかったので、生徒との意思疎通は、主に英語と彼らの分かる日本語などを駆使した。私自身もそれほど英語が得意ではなかったが、英語がほとんどわからない生徒もいたため、その点は身振り手振りや写真、理解の進んでいる生徒にベトナム語で説明してもらうなどで対応した。

授業の際に気をつけたことは一方的な講義にならないように、できるだけ生徒に授業で学んだ単語や文法を用いて質問を投げかけた。私のクラスは 4 から 5 人程度の少人数であったので、生徒一人ひとりに万遍なく注意を払うことができたと思う。また、前回で学んだことを忘れないように以前の講義で扱った例文や単語なども、後の授業でなるべく利用するように心がけた。

授業は 90 分間あったが、テキストだけの内容では生徒も退屈してしまうこともあったため、以下のコンテンツも授業の合間に盛り込んで、できるだけ楽しみながら授業が行えるように工夫した。

１．　カルタ
　私は日本から、「日常生活カード」（掃除機やふとんなどの写真）を持ってきていた。最初に、10 枚程度フラッシュカード形式で単語と写真を結びつけて覚えてもらいそのあとに、カードを机に並べてカルタにして遊んだ。段々と机に並べるカードが増えてくると生徒も苦労したようだが、なかなか白熱したゲームとなった。
２．　自己紹介、日本の紹介、ベトナムの紹介
　私自身のプロフィールや日本の生活や文化などを、写真を見せることで説明した。また、生徒にも私からベトナムについて質問をして、文化や歴史といった様々なことを教えてもらった。私自身ベトナムについて知れば知るほどより興味が増したし、また生徒にも日本について興味を持ってもらえたと感じた。
３．　ひらがな連想ゲーム
　たとえば「い」をテーマにした場合、「い」を頭文字にもつ単語を次々に言ってもらうようにした（いぬ→いす→いけ、といった流れ）。順番に単語をいう中で、ヒントは互いに身振り手振りで伝え合うようにすることで、ユニークなジェスチャーがたくさんあり授業も非常に盛り上がったと思う。

４．　歌

生徒から日本語の歌を教えてほしいという要望があった。生徒が歌いたいといった曲は、B.B クイーンズの「おどるポンポコリン」だった。歌詞の意味を説明するのが中々難しく苦労したが、最後にはみんなで歌うことができた。また、生徒が私にベトナムの歌を教えてくれて、私も「toi yeu vietnam」をみんなの前で披露した。

最後の授業では、感謝の意味を込めて私達から生徒ひとりひとりにメッセージカードを送った。カードには、その生徒をイメージした漢字一文字と私達二人からのメッセージを添えた。日本語教室に来るメンバーはほとんど固定されていたので、ひとりひとりに思い入れがあって、やはり最後の授業は寂しさもあったが感謝の言葉を伝えることができたと思う。

◆　**日本語教室以外での現地での交流活動**

朝、昼、夜とご飯はいつも誰か一緒に居てくれて、様々なものを食べに連れて行ってくれた。夜は最長6次会くらいまで、ベトナムの学生はいろいろとお店を変えて私達を楽しませてくれた。お店を変えていくと、途中から様々なメンバーが参加し、とてもたくさんの現地の人と交流することができた。いつでも「何が食べたい？」、「どこに行きたい？」など積極的に私達の希望を聞くようにしてくれた。

休日はハノイの中心街に行ったり、郊外のバッチャンに電気バイクで行ったり、夜は日本の料理を私達が準備をしてパーティーをひらいたりと非常に充実して楽しい思い出がたくさんできた。

◆　**プログラムに参加した感想**

今回、外国で日本語を指導するという中々得難い経験ができた。ここまでおおくの時間を外国の人と一緒に過ごし、語り合ったことは今までの人生でなかったことで、そうした経験ができたことも自分にとってとても大きな財産となったと思う。そこに住む人の考え方や文化、歴史をもっと知りたいと思えたし、これからも国内だけでなく、様々な国に興味関心を持って過ごしていきたい。

◆　**今後の展望**

今回このプログラムに参加したことは、海外に目を向けるだけでなく日本について目を改めて向ける良い機会になったと思う。もっとベトナムの文化や歴史についても、学んでみたくなり、機会があればもう一度ベトナムにいって日本語を教え、また多くの友人に再会したい。

英語についてももっと勉強をして、listening や speaking のスキルを向上させたい。